



本日のやさしい勉強会 婦人科悪性腫瘍

奥島病院

婦人科

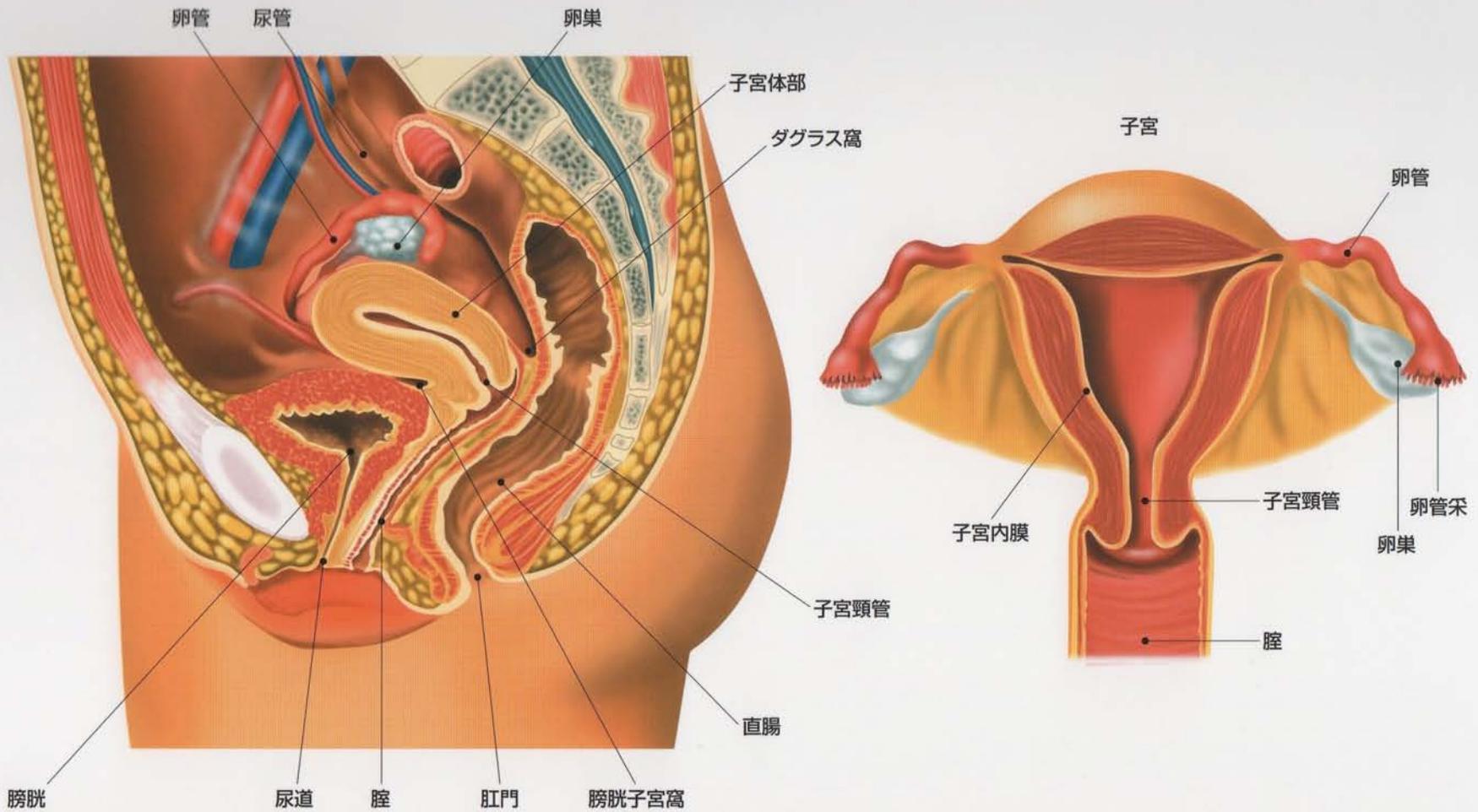
千葉丈

女性性器がん

| 外性器 | 内性器 |
|------|-------------|
| 外陰がん | 膣がん |
| | 子宮がん(頸部、体部) |
| | 子宮肉腫 |
| | 絨毛性疾患 |
| | 卵巣がん |
| | 卵管がん |

女性生殖器の構造

《正常子宮図》



外陰がん

外陰は皮膚に発生するあらゆる病気、腫瘍が生じる。高齢者に多い。90%扁平上皮がん、次いで悪性黒色腫。

＜原因および危険因子＞ 年齢、ヒトパピローマウイルス(HPV)、喫煙、糖尿病など

＜症状＞ **腫瘍形成**、下着の汚れ、帯下、かゆみ

＜治療＞ 手術療法、化学放射線治療

膣がん

膣の腫瘍はきわめて稀。

原発性膣がんは、女性性器悪性腫瘍全体の2%以下、転移性が85%。

膣上部の5年生存率約80%、膣下部の5年生存率40%

<原因および危険因子> HPV感染が原発の90%以上を占める。

<症状> 帯下、出血

<治療> 手術療法(局所切除を含む)、放射線治療、化学療法

子宮頸がん

子宮頸部に発生する悪性腫瘍。
前駆病変は子宮頸部上皮内腫瘍といい、軽度、
中等度、高度異形成および上皮内がんと称す。
年間罹患率約8000人、死亡数約2500人。

＜原因および危険因子＞ **HPV感染**が関与。

HPV100種類以上。低リスク6型、11型

高リスク16型、18型

既婚、早い初交、性パートナー数、クラミジア感染
、経口避妊薬長期服用など

<症状> 前駆病変は無症状が多い、不正
性器出血、性交時出血、帯下

<治療> 手術、放射線治療、化学療法

<注目> HPVワクチンが出来たよ!!!

子宮頸がんは予防できるよ

HPVワクチンの国別使用状況

| 国 | 対象年齢 | 対象年齢キャッチアップ | 公費負担状況 |
|---------|--------|-------------|--------|
| オーストラリア | 12～13歳 | 13～26歳 | 全額公費負担 |
| アメリカ | 11～12歳 | 13～26歳 | 一部公費負担 |
| イギリス | 12～13歳 | 18歳まで | 一部公費負担 |
| フランス | 14歳 | 15～23歳 | 一部公費負担 |
| ノルウェー | 11～12歳 | 13～16歳 | 全額公費負担 |
| ドイツ | 12～17歳 | なし | 全額公費負担 |
| ルクセンブルグ | 12歳 | 13～18歳 | 一部公費負担 |

子宮体がん

子宮頸がんとはまったく異なるがん。

子宮体部の内膜部分に発生。

好発年齢は閉経を中心とした40～70代
全ての年齢層で最近増加傾向にある。

＜原因および危険因子＞ 女性ホルモン(エストロゲン)、肥満、高脂肪の食事、未産、早発月経、遅発閉経、タモキシフェン使用など

＜症状＞ 不正出血、帯下

＜治療＞ 手術療法、放射線療法、化学療法、ホルモン療法



子宮肉腫

子宮体部から発生する比較的まれな腫瘍。
悪性腫瘍の5%以下で組織がとても複雑。

がん肉腫、平滑筋肉腫、内膜間質肉腫

＜症状＞ 不正性器出血(特に閉経後)、
月経過多、帯下異常

＜治療＞ 手術療法、放射線治療、化学療法、
ホルモン療法

絨毛性疾患

胎盤を形成する絨毛の異常または異型増殖により生じる。

胞状奇胎、**絨毛がん**、胎盤部トロホブラスト腫瘍、存続絨毛症

＜原因および危険因子＞ 正常分娩、流産、胞状奇胎

＜症状＞ 不正性器出血

＜治療＞ 手術療法、化学療法

卵巣がん

卵巣に発生したすべての悪性腫瘍をいう。

小さい臓器なれども病気発生率は甲状腺に次いで多い。別名**静かなる殺し屋**。

組織型は多種多様であり、悪性度も種々である。

死亡数年間4420人(女性全がん死亡数127262人の3.5%を占める。

＜症状＞ 下腹部腫瘍感、圧迫感、不正性器出血、月経異常、下腹部痛、腹部膨満

＜治療＞ 手術療法、化学療法

卵管がん

卵管は女性生殖器のうち腫瘍発生頻度が最も低い臓器。

女性性器悪性腫瘍の0.3%を占めるのみ。

＜症状＞水様帯下、不正性器出血、下腹痛、腹部腫瘍

＜治療＞手術療法、化学療法